金沢大学附属図書館報“こだま”　第167号（2009年１月）　ISSN　0915－8782

CONTENTS

１．秋の特別展
２．特別開館（24時間利用）の中止について
３．図書館アンケート調査結果概要報告
４．図書館員によるアメリカ出張報告
５．「CiNii」を活用しよう！
６．図書館トピックス

http : //www.lib.kanazawa-u.ac.jp

来場者が千人を超えた秋の特別展！

平成20年度資料館・附属図書館特別展『受け継がれた「モノ」たち―明治・大正・昭和の掛図・模型』（平成20年10月15日～11月14日）が資料館展示室で開催されました。

附属図書館や資料館には，第四高等学校等の前身校から受け継いだ掛図や模型を多数所蔵しており，今回これらの中から，初公開を含む67点を展示しました。色鮮やかな大判の掛図や，精巧な模型など眼を引くものが多く，会期中1,000人を越える方が来場し好評を博しました。

ギャラリートークの様子

【絵図を利用した授業を行いました】

11月13日（木）午後１時50分から「角間の里」で，附属中学校２年生35名が『見て・触れて・感じてみよう！金沢の絵図』と題した授業を受けました。

これは，特別展にちなんで行われたもので，五味武臣地域創造学類長が，江戸時代の金沢城や城下の絵図を示しながら，犀川や浅野川の役割，辰巳用水の成立事情などを分かりやすくお話されました。

生徒たちは，教室とは雰囲気の異なった「角間の里」での授業，日ごろ見る機会がない絵図や資料を目の前にした体験に興味津々の様子でした。

自然科学系図書館の特別開館（24時間利用）の中止について
（持続可能な「自学自習」の確立に向けて）

金沢大学附属図書館長　　柴田正良　　平成21年１月５日

平成17年度より自然科学系図書館が新しく角間南地区に開館して以来，学生・教職員のみなさまの便宜のために，夜８時の閉館以後も翌朝まで図書館を開放し，特別開館（いわゆる自然科学系図書館の24時間利用）を実施して参りました。

しかしながら，このたび，24時間利用体制を抜本的に見直した結果，以下の理由により来年度より24時間利用を中止することになりました。自然科学系図書館を時間外にご利用頂いていた学生・教職員のみなさんにはご迷惑をおかけすることと存じますが，どうぞご理解を賜りますようにお願い申し上げます。

自然科学系図書館の特別開館（24時間利用）に関しては，それを主に検討するワーキンググループを立ち上げ，その提案を全学の図書館委員会に諮り，そこで得られた「24時間開館中止」という結論をすでに情報企画会議，教育企画会議，教育研究評議会において報告し，了解を得た次第です。

24時間利用中止の主な理由は，
（１）閉館後のセキュリティが確保できない，
（２）冷暖房なしの状態であり，滞在しうる学習環境を提供できない，（３）カードキーを持たない学生（文系・医系・理系１～２年生）が利用できない，ということです。

このうち，閉館後のセキュリティ問題がもっとも深刻であり，現状では，巡視・監視等の管理体制が十分とはほど遠い状態にあります。したがいまして，この状態を抜本的に改善することが現在の本学において困難である以上，利用者を危険に晒すことはもっとも回避すべきことであり，閉館時の利用を中止せざるをえないと判断いたしました。残りの２つの理由も，もともと24時間利用を本学が運営・施設整備の面から全学体制で実行してきたわけではないという弱点に関わっています。例えば，「冷暖房をきちんとしてほしい」という，夜間利用者の不満の声に対しては，「自然科学系図書館は正式には夜間＜開館＞しているわけではなく，ただ，学生・教職員の資料閲覧・複写を許可しているだけである」というのが私どものせいぜいの言い訳でした。しかし，全学体制による24時間＜開館＞実施に立ちはだかる問題としては，現在の閉館後の入館者は全体の７％程度にすぎず，午後10時以降では５％程度でしかない，という冷厳たる事実もあります。

一方，セキュリティ対策を含めたこのような費用対効果とも言うべき考慮とは別に，図書館

を24時間開館することが本当に大学にとって手放しで歓迎すべきことなのか，という根本的な問題があります。ご存じのように，ニューヨークでは地下鉄が24時間走っており，深夜でも早朝でも市民はそれを気軽に利用することができます。というよりも，正確に言えば，24時間営業の地下鉄を利用せざるをえない生活スタイルで市民生活ができあがっているわけです。しかし，翻って，大学はどうでしょうか？　少なくとも本学においては，深夜・未明の活動を研究や勉学の基本サイクルの中に恒常的に組み込んでいるような学生・教職員はいないはずです。とすれば，たまたま，試験やレポートの直前に「開いててよかった」という場合もあるかもしれませんが，しかし，それは翌日の研究や勉学のことを考えれば，持続可能なスタイルとは言えないでしょう。ことに，学生にとっての本学の理念「自学自習」が，一過性の興奮状態で達成されるわけではなく，落ち着いた持続可能なプランによって初めて実効的となる，ということは明らかではないでしょうか。したがって，図書館は，学生のみなさんの「計画に基づく学習と研究の進展」を支援するのに吝かではありませんが，コンビニのような便利機能を提供することは本義ではないと考えています。

なお，持続可能な「自学自習」の支援ということでは，来年度より図書館は，学生のみなさんの要望に応えるべく，全学的な理解と協力のもとに，中央図書館，自然科学系図書館，医学系分館の３館すべてにおいて，通常期平日夜10時までの開館時間の延長を行うことを決定いたしました。前にも増したみなさんのご利用をお待ちしております。

ただし，図書館としましては，「24時間利用中止」の件につき，とくに学生のみなさんのご意見を直接に聞く必要があると考えており，平成21年１月28日（水）に，主にこの問題をテーマとした「図書館長と学生の懇談会」を計画しております。24時間利用中止に限らず，この際，図書館のさまざまな事柄について，みなさんの率直なご意見をお聞かせ願えれば幸いです。

以上。

附属図書館アンケート調査結果概要報告

附属図書館では，昨年秋にLibQUAL＋®[注1)]を用いたオンラインによる利用者アンケート調査を実施いたしました。ご参加くださった皆様に，厚くお礼申し上げます。回答コメントにも見られましたが，各質問に対して，３回ずつ点数をつけるという，一般のアンケートとは異なる回答方法に接して，とまどった方も多かったようです。回答をお寄せ下さった参加者の皆さんに感謝し，ここに調査結果の概要をお知らせするとともに，このアンケートの特徴をご紹介します。

１）調査方法

実施期間：平成20年９月29日～
10月19日（３週間）

調査対象：全学生及び全教員

調査方法：学生はアカンサス・ポータル[注2)]のメッセージ機能を用いて，教員には，部局等メーリングリストを通じて，個別に依頼メールを送付した。

２）回答者とその内訳　**（図１）**

有効回答数	1,561
学　部　生	1,226
大学院生	257
教　　員	78

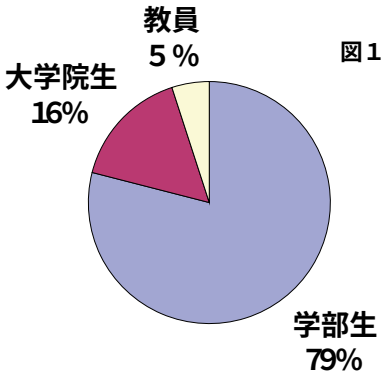


図１　有効回答者身分別比率

３）質問項目一覧

質問 no.	種類	内容
1)－27)	主要質問	LibQUAL＋®標準項目(22)
	ローカル質問	本学追加項目(5)
28)－32)	付加質問	情報リテラシー成果質問(5)
33)－35)		一般満足度質問(3)
36)－38)	図書館利用に関する質問	図書館利用頻度等(3)
39)－43)	統計質問	利用図書館･所属等(5)
44)	自由記述	図書館サービスへの意見

４）主要質問への回答結果概要

LibQUAL＋®からは，各項目への回答平均値と標準偏差が示された英文版ノートブックが提供されています。[注3)]この中から，主要質問（LibQUAL＋®標準）への回答をグラフ化したものを解説します。

a）レーダーチャートで全体を見る**（図２）**

放射状の直線が22の主要質問（**３つの側面**に分類）を表し，回答平均値がプロットされています。外側が高い得点を表します。

図の中心の白い部分の外周が「最低限のレベル」を繋いだもの，青色の外周が「実際のレベル」を繋いだもの，黄色の外周が「望ましいレベル」を繋いだものとなります。

黄色と青色の部分が，「望ましいレベル」には達していないが，許容できる範囲です。

従って，青い部分が，「最低限」よりも「現状」の評価が上回っている度合いを表し，黄色の部分が，「望ましいレベル」とのギャップを表しています。「実際」が「最低限」を下回る評価だと，赤で示されます。

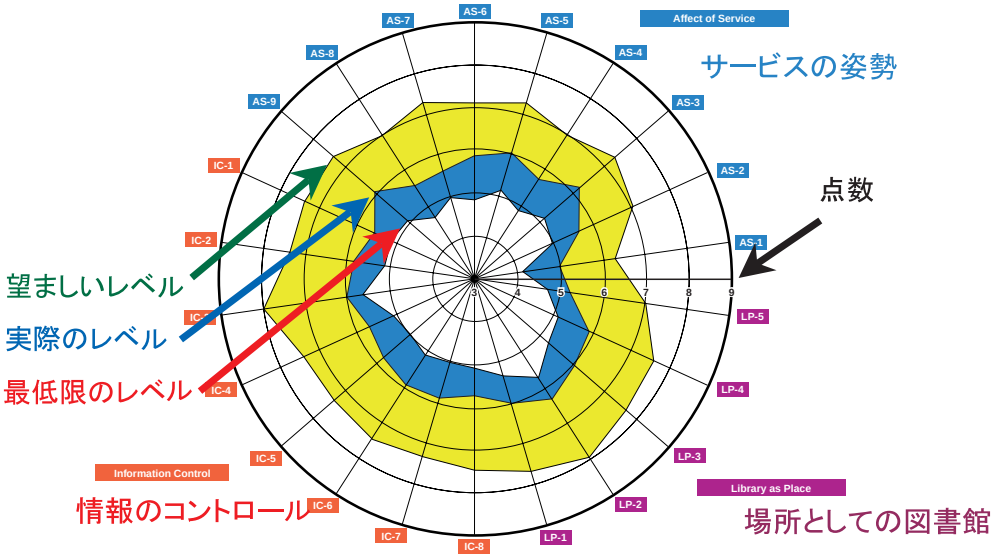


図２－１　主要質問のサマリー（レーダーチャート）全体

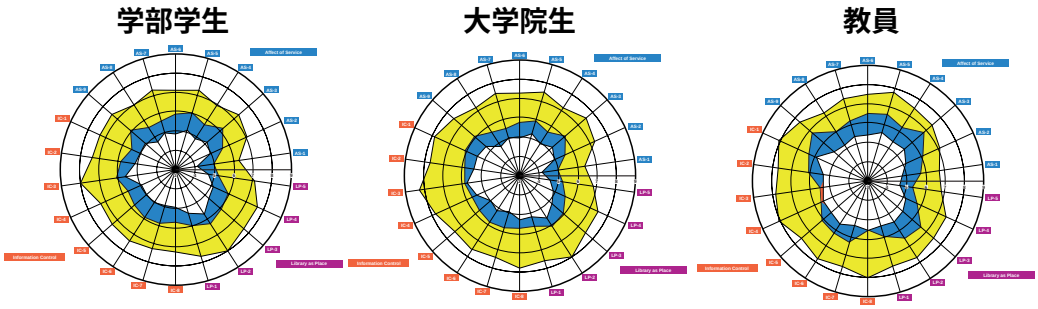


図２－２　レーダーチャート身分別比較

b）バーグラフで側面ごとに比較**（図３）**

各グラフ内のグレーの棒は，それぞれ左から

３つの側面：

「サービスの姿勢」

「情報のコントロール」

「場所としての図書館」

における許容範囲を表しています。すなわち，下端が「最低限のレベル」の数値，上端が「望ましいレベル」の数値を示しており，オレンジの棒の上端が「実際のレベル」の数値です。オレンジの棒の長さが長いほど，満足度が高いということになります。

学部学生が，「場所としての図書館」への要求が高いのに対し，大学院生及び教員は，「情報のコントロール（資料が使えること）」への要求が高く，また，その満足度が低いことが見てとれます。

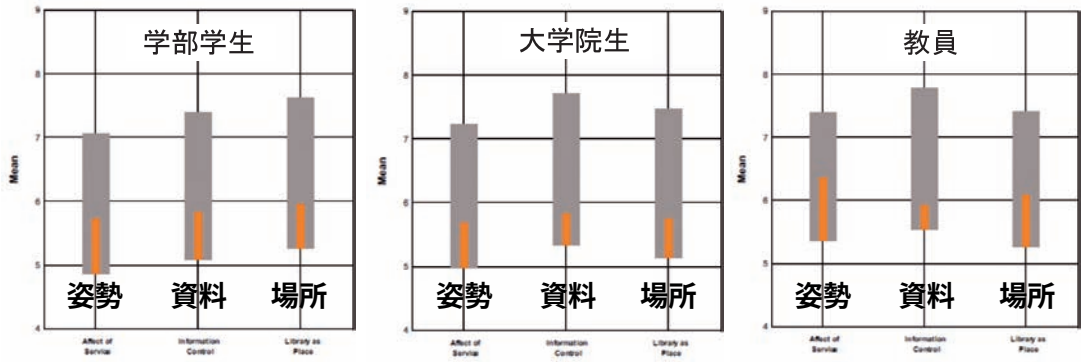


図３　バーグラフ身分別・側面別比較

５）結び

学部生からは比較的高い回答率を得られましたが，大学院生と教員に関しては，十分な参加が得られませんでした。従って，上記の大学院生および教員のチャートは，構成員の総意を表すものとはなっていません。

今回，教員と大学院生への周知がうまくいかず，折角の機会を十分生かせなかったことは非常に残念で，今後，調査協力を依頼する場合には，工夫が必要であると感じています。

また，自由記述欄に多くの貴重なご意見をいただきました。要望事項等への回答を図書館ホームページ上に掲載しておりますので，ご参照ください。すぐには対応が難しいものもありますが，今後皆様の期待に応えることができるよう，一層努力する所存です。

注１）アメリカ研究図書館協会（Association of Research Libraries, ARL）が開発・提供しているサービスで，顧客の期待と経験のギャップを測定する手法SERVQUALをもとに，図書館向けに改良を加えたものである。　2008年は全世界で206機関が参加し，日本からは，本学の他に慶應義塾大学と大阪大学が参加した。

注２）金沢大学のラーニング･マネジメント･システム

注３）ノートブック“LibQUAL＋®　2008　survey Kanazawa University Library”及び，自由記述に対する回答一覧は，附属図書館ホームページに掲載（学内限定）。より詳しい分析結果は，今年度中に公表する自己点検・評価報告書のなかで報告予定。

参考資料

１）LibQUAL＋®　サイト
http : //www.libqual.org/
２）市古みどり．LibQUAL＋®の実施に向けて．薬学図書館，53(３)，2008，266－270.

（情報部情報サービス課長　川添真澄）

［図書館員によるアメリカ出張報告］

SPARC Digital Repositories Meeting 2008とアメリカ国立医学図書館，ジョージ・メイソン大学，コロンビア大学訪問

１．はじめに

機関リポジトリに関する調査・研究の一環として2008年11月17日（月）から始まる国際会議SPARC Digital Repositories Meeting2008[*1)]に出席しました。機関リポジトリとは，大学等の機関の構成員が生み出した研究成果を電子的な形態で保存し，Web 上で公開することを目的としたシステムです。金沢大学でも「金沢大学学術情報リポジトリ KURA」の構築を行っています。

今回の出張の目的は，アメリカにおける機関リポジトリへの取組みの現状を調査すること，また大学図書館を訪問し，併せて学生サービスについても調査することでした。そのために，アメリカ国立医学図書館（National Library of Medicine：以下 NLM），ジョージ・メイソン大学，コロンビア大学を訪問しましたので，ここに簡単ではありますが報告します。

２．SPARC Digital Repositories Meeting 2008

２日間にわたり，SPARC が主催するリポジトリに関する国際会議がボルチモアで開かれました。

１日目はリポジトリへの付加価値サービスに関して，ペンシルベニア大学の Shawn Martin 氏が機関リポジトリをバックボーンとした研究者個人のページを作るサービスについて発表し，またハワイ大学大学院の Jennifer Campbell-Meier 氏はリポジトリの普及のための広報活動の重要性についての発表をしました。

２日目は各大学でのリポジトリへの取り組みが次々と紹介されました。両日とも多くの質疑応答が飛び交い，大変盛り上がりました。

１日目のセッションでは金沢大学情報部の内島秀樹情報企画課長の発表があり，デジタルリポジトリ連合（DRF）[*2)]の活動やノーベル物理学賞の益川・小林論文を機関リポジトリへ搭載した京都大学の事例など日本で行われているリポジトリ活動についての報告が行われました。

参加者の中にはこれからリポジトリを始めようと考えている大学の方もいらっしゃり，アメリカもリポジトリへの取り組みを始めたばかりのところが多く，日本と同じようにまだ発展途上の段階にあるとの印象を受けました。

３．アメリカ国立医学図書館（NLM）訪問

NLM はアメリカ国立衛生研究所（National Institutes of Health：以下 NIH）に属する機関の１つです。NIH は生物・医学関係の研究助成金を出している政府機関で，2007年12月にはその助成金で行われた研究成果については NLM が運営している PubMed Central[*3)]というアーカイブへの登録を義務化するパブリックアクセス方針が法律化されました。この法律の対象は2008年４月７日以降に出版社に受理された査読済み論文です。今回の訪問では，まず施設を見学し，その後以下の点についてスライドを交えながら説明していただきました。

・PubMed Central について

PubMed Central の定義は「Digital Archive of life science journals」であり，フルテキストへのフリーなアクセスを実現しています。PubMed Central への登録には，出版社が参加を申し出てバックナンバーの登録の有無や embargo[*4)]の期間など基本的な合意を交わす必要があります。

・パブリックアクセス方針について

2005年５月に助成金で行われた研究については「voluntary」つまり任意での登録を促す方針が決まりましたが，あまり集まりませんでした。その後2007年１月にエルゼビア社[*5)]から，７月に ACS[*6)]から著者版の提供を受け，2008年４月に登録が義務化されたこともあり，飛躍的に登録数が増加し，現在に至っています。

・NLM が考えるオープンアクセスとパブリックアクセスの違い

オープンアクセスは使用に制約がなく自由であり，公表後すぐに利用可能なものに対して使用する言葉です。それに対しパブリックアクセスは一定の決まりの下での使用が原則となり，公表後すぐに使用できるわけではなく１年間の embargo が設けられます。

施設見学では，貴重書室で世界中の医学・自然科学の貴重図書を拝見させていただきました。こちらの本のいくつかは電子化されており，http : //archive.nlm.nih.gov/proj/ttp/intro.htm から見ることができます。

４．ジョージ・メイソン大学（George Mason University）訪問

ジョージ・メイソン大学は1972年にバージニア大学から独立し州立大学となった比較的新しい大学です。こちらの大学の Fairfax キャンパスにある Johnson Center Library という図書館を見学し，ラーニング・コモンズ（学習するためにみんなが集う共通の場所）[*7)]についてうかがってきました。

この図書館は Johnson Center という複合施設の中にあり，図書館のほかに映画館，フードコート，ブックストア，銀行などがあります。１階に入り口がありますが，中央にある螺旋階段で直接２階や３階の図書館エリアへと行けるので，非常に開放的な図書館です。

Fairfax キャンパスにはこの図書館のほかに学内で一番大きい Fenwick Library があり，学生はそれぞれのメリット，デメリットを踏まえて図書館を選択することができると案内してくれた方はおっしゃっていました。

現在は資料の電子化が進み，パソコンでの情報入手が簡単となったため，図書館への来館者数は減少の傾向にあります。そのような中，大学図書館はラーニング・コモンズを設置するなどして利用者の増加を図っています。この Johnson Center Library は全体が大きなラーニング・コモンズとして学生に提供されているように感じました。このような複合施設型の図書館を提供することが純粋な図書館利用者の増加につながるかはわかりませんが，少なくとも学生にとって図書館という存在が身近になることは間違いないと思います。

５．コロンビア大学（Columbia University）訪問

コロンビア大学は250年以上の歴史を持つ伝統ある大学です。ここではまず，Butler Library（写真）の見学をした後，リポジトリや学生サービスについてそれぞれ担当の方からお話をうかがいました。

Butler Library

コロンビア大学のリポジトリ「Academic Commons」[*8)]は2005年より運営が開始され，2008年12月現在約10,600件のレコードが登録されています。学内の教員，学生，スタッフによる研究成果を安全に長期間保管し，それらをオンライン上で発見し使用出来るようにすることにより，研究成果へのアクセスを増加させることを目標としています。

機関リポジトリの活動においては，研究成果の主な生産者である教員への広報活動が重要となってきます。金沢大学では図書館職員自ら教員への説明を行っていますが，コロンビア大学では教員と直接コンタクトを取り合っている Selector（各分野における書誌の専門家）などへの広報活動を主にしています。Selector にリポジトリを知ってもらい，Selector を通して教員へ広報しているようです。

案内をしてくださった方のお話の中で，蔵書スペースの問題についてもうかがうことができました。コロンビア大学でも蔵書スペースの問題は深刻となっていて，現在古い図書や利用頻度の低い図書はオフサイト（Off-site）と呼ばれる場所へと移されています。

オフサイトとはプリンストン大学，ニューヨーク公共図書館と共同で運営している図書の保

管庫で，プリンストン大学の敷地にあるため図書を取り寄せるのに２日はかかってしまい，学生にとっては大変不便であるとのことでした。

また，コロンビア大学図書館でもジョージ・メイソン大学図書館でもコース・リザーブというサービスが行われていました。

コース・リザーブとは教員が授業で使用する図書や参考図書などを選定し，図書館がそれらを複数購入し学生に提供するサービスです。日本でもこのサービスを提供している大学図書館はいくつかあります。アメリカでは比較的メジャーなサービスで，コロンビア大学ではこのコース･リザーブの図書の利用が大変多いそうです。

６．終わりに

今回 SPARC Digital Repositories Meeting 2008 への参加や大学図書館等を訪問したことにより，アメリカでのリポジトリ活動の現状を知ることができました。

多くのアメリカの大学はリポジトリに本格的に取り組み始めたばかりであり，抱えている問題点や今後取り組む課題などは日本と共通しているものが多くあります。しかしパブリックアクセス方針の制定やリポジトリ専任の職員を置くなど，環境の整備に関してはアメリカのほうが一歩先を行っていると思いました。また，色々な方の話を聞くにつれ，教員の方が論文を登録したいと思う魅力的なリポジトリの環境作りとそれをアピールする広報活動の重要性を改めて感じました。今回得た知識をこれからの KURA の運用に是非活用していきたいと考えています。

最後になりますが，今回の出張にご協力いただいた訪問先機関の方々，日本から一緒に参加した他大学の方々，金沢大学附属図書館の方々，そして旅先で出会い親切にしてくださった方々，すべての方にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

---

*1) SPARC（Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition）とは大手商業出版社の雑誌価格高騰に歯止めをかけるため，学術研究成果のオープンアクセスなど非営利的な学術情報流通の実現を目的として1998年に設立された組織。SPARC Digital Repositories Meeting 2008 に関しては http：//www.arl.org/sparc/meetings/ir08/を参照のこと。

*2) デジタルリポジトリ連合(Digital Repository Federation, DRF）とは機関リポジトリに関する情報を機関間で相互に交換・共有するために北海道大学，千葉大学，金沢大学が立ち上げた組織。詳しくは http : //drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/を参照のこと。

*3) PubMed Central とは NLM が主催するライフサイエンス分野の電子ジャーナル・アーカイブデータベースで，無料でフルテキストが利用可能だが，発行後１年前後利用できないものが含まれている。 http : //www.pubmedcentral.nih.gov/

*4) 出版した論文を Web 上で無料公開するまでの猶予期間。

*5) エルゼビア社（Elsevier）は，オランダに本社がある大手学術出版社。

*6) ACS（American Chemical Society）は，アメリカ化学協会。

*7) ラーニング・コモンズとは，「学習するためにみんなが集う共通の場所」で，パソコン等の学習設備が整っており，個人の学習やグループでの学習，ディスカッションなどを行いやすい施設。大学図書館に設置されることが多く，資料調査で行き詰ったときのための利用相談やレポートの作成支援などが行われることもある。

*8) 「Academic Commons」 http : //app.cul.columbia.edu：8080/ac/

（情報企画課コンテンツ第一係　川井奏美）

KURA 金沢大学学術情報リポジトリ
Kanazawa University Repository for Academic resources

＜和文＞文献収集の味方
「CiNii（NII 論文情報ナビゲータ）」を活用しよう！

こだま第166号「＜欧文＞文献収集の味方「電子ジャーナル＆データベースを活用しよう！」に引き続き，今回は日本語論文の検索方法についてまとめてみました。

今回ご紹介する『CiNii』（サイニイ）は，国立情報学研究所（NII）が提供する論文データベースで，学協会誌・研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引などを検索の対象としています。収録件数は1,200万件を超え，日本語論文を統合的に検索することが可能となっています。

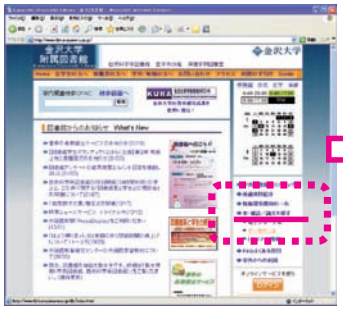
検索結果からの OPAC リンク，本文リンク，その他関連情報へのリンクに加え，2008年10月からは，CiNii から機関リポジトリ（※）の論文へのリンクも開始され，ますます便利になっています。是非，ご活用ください。

※機関リポジトリとは，大学等の研究機関での教育・研究活動によって生み出された学術的な情報（論文，紀要，実験データ等）を電子的な形態で保存し，インターネット上で無償で公開するシステムです。→金沢大学学術機関リポジトリ KURA をご参照ください。

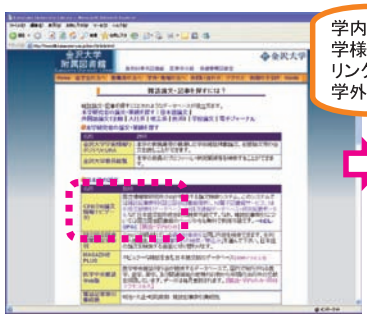
★CiNiiへの接続方法

・図書館ホームページ（http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/）　→ 論文を探す
　→ CiNii （http://ci.nii.ac.jp/）

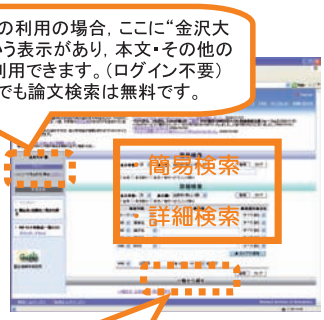
①スタートは図書館ホームページ
「論文を探す」をクリック



②「CiNii」を選択

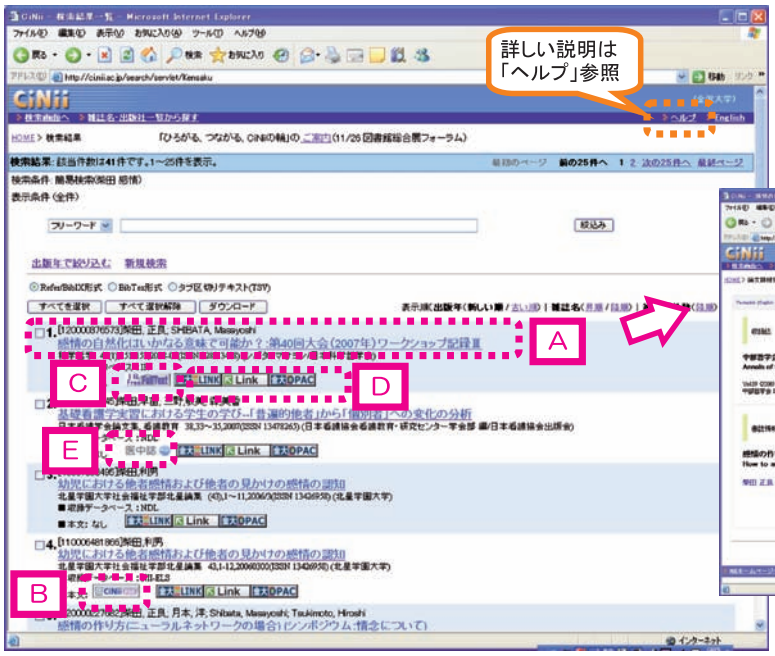


③キーワードを入れて検索



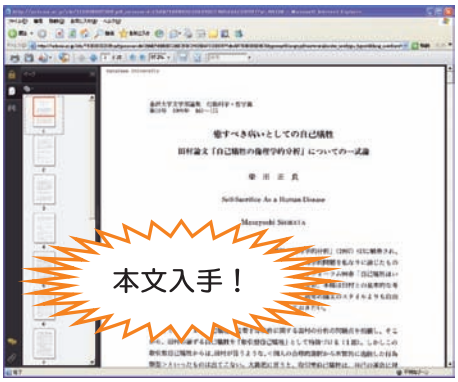
「一覧から探す」
雑誌名や提供条件（無料一般公開）などからも探せます。

④データベースの検索結果

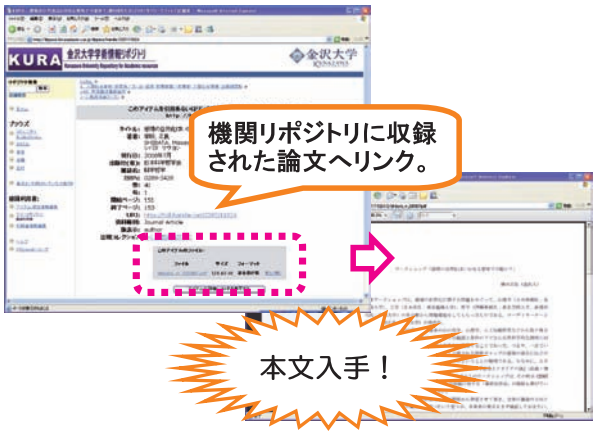


A：論文のタイトルをクリックすると，詳細が表示されます

B：CiNii PDF　本文リンク

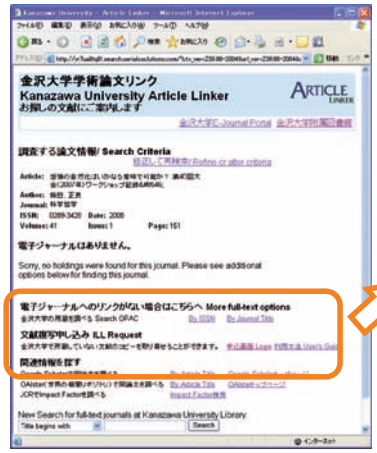


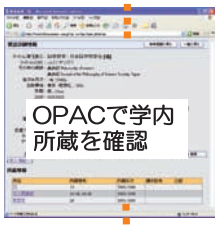
C：JR Free FullText　機関リポジトリへのリンク



D：金沢大学OPAC，他の所蔵先の検索，文献複写依頼など，論文入手へのリンク

金大LINK　Link　金大OPAC





OPACで学内所蔵を確認

図書館でコピー

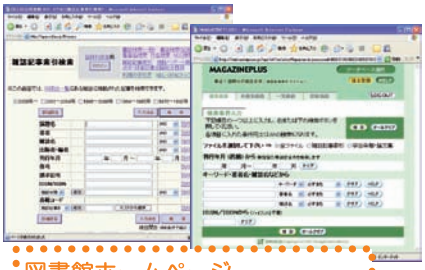
[ログイン]して文献複写依頼画面へ

E：他のデータベースへのリンク

J-STAGE　医中誌　etc.

他のデータベースの当該論文画面，抄録などへリンク

そのほか，日本語論文の検索には，
・国立国会図書館雑誌記事索引
・MAGAZINEPLUS
などがあります。

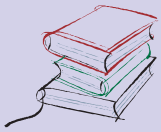


図書館ホームページ
→「論文を探す」からどうぞ！

図書も論文もまとめて探したい！
→ GeNii ジーニイ
（NII学術コンテンツ・ポータル）

図書館ホームページ
→「データベース」からどうぞ！

（自然科学系図書館係）



図書館トピックス

■「教員おすすめ図書コーナー」が新しくなりました！

（中央図館内展示，図書館ホームページ掲載）

■「よくある質問とその回答集（ＦＡＱ）」を図書館ホームページにアップしました！

アクセスは,こちらから　⇒　**http : //www.lib.kanazawa-u.ac.jp/faq**

中央図書館に「北陸銀行文庫」を設置

平成20年12月16日に，北陸銀行から学生のキャリア教育および就職活動支援のための図書161冊が寄贈されましたので，大いに利用してください。

設置場所：中央図書館２階閲覧ホール

就職支援図書の展示を行いました

就職活動の時期に合わせて，平成20年12月15日（月）から12月25日（木）まで，中央図書館２階閲覧ホールにて，新着の就職支援資料を展示しました。展示のほとんどが「貸出」され，準備したパンフレット（後援：学生部就職支援室）ともに好評でした。

「本学教員著作等寄贈図書リスト」掲載

図書館報「こだま」に掲載しておりました標記リストは，平成20年度分から図書館ホームページで紹介しておりますのでご覧ください。

●データベース等のトライアル情報●

ぜひ,この機会にお試しください。

▽DynaNed（EBM に基づく臨床系リファレンス・ツール）

～平成21年３月31日まで

◆活動記録（2008.8－2008.12）

＜中央図書館＞

・Web of Science 講習会（10月16日）

＜自然科学系図書館＞

・Web of Science 講習会（10月16日）

・Scopus / Science Direct 講習会（11月13日）

★会議等

・第２回図書館委員会　（11月５日）

・自己点検・評価 WG　（８月６日，12月24日）

・学術情報基盤整備 WG　（11月７日）

・学生用図書選定部会

（中央図書館：　10月20日，12月11日）

（自然科学系図書館：　10月16日，12月８日）

・第１回学術情報リポジトリ検討小委員会（12月18日）

金沢大学附属図書館報「こだま」第167号　平成21年１月31日発行

発行：金沢大学附属図書館　編集：広報委員会　印刷：株式会社 橋本確文堂

〒920－1192　金沢市角間町　TEL：076-264-5200　E-mail : etsuran@ad.kanazawa-u.ac.jp

表題地模様©Toku Yusui（加賀友禅染絵『さやぐ，おどる』．由水十久（初代．1913－1988）は金沢出身の加賀友禅作家）